

2024 年度 自己評価結果公表シート

学校法人 京新学園
太秦幼稚園

1. 本園の教育目標

「知」・「徳」・「体」・「食」のバランスのとれた保育を教育方針とし、幼児教育を行っている。
「知」・・・知恵、考える力を育てる
「徳」・・・善悪の判断を自分でできる子どもに育てる
「体」・・・健康な体に育て、十分な体力をつけさせる
「食」・・・食に関心をもち、感謝する心を育てる
この精神を基にして、先生や友達と一緒に幼児期に必要な経験を積むことで、人との信頼関係やコミュニケーション能力を育て、意地悪をしない正しい心、人を許せるやさしい心、嘘をつかない強い心、謝ることのできる素直な心を持った心豊かな子どもの育成を目指している。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

保育の質の向上に組織的に取り組み、保育の環境構成や教材研究など振り返りにより保育内容の改善や見直し等を積極的に行っていく。職務に応じた知識及び技能を身に付け教育の質を高めていく。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
1. 保育の質の向上	① 園内研修の充実 子どもの内面理解において臨床心理士の園内研修を充実させ、個々に合わせた視覚教材を研究・作成・実践し、保育の質の向上に繋げた。また、不審者・防犯研修を行うことでより一層、教職員・運転手と連携し、職員間での共通理解、安全意識を更に高められた。今後も改善を図り、また保護者とも連携して安全意識を高めていきたい。 ②オンライン研修や対面研修へ自主的に参加し、自己研鑽を高めることができた。
2. 子育て支援の環境づくり	① 未就園児保育や園庭開放では、幼稚園を知って頂ける機会となり保護者の憩いの場として大勢の方の利用があった。遊具や玩具などの環境が充実しており、子どもたちも楽しむ様子が伺えた。在園児との交流が出来るようにカリキュラムも組み込んだ。今後は暑さ対策も視野に入れて環境を整えていきたい。 ②臨床心理士の定期的訪問に加えて保育現場で生かせるアドバイスをもらうなど実践や環境構成の改善に繋がれた。専門的立場からのアドバイスを保護者と共有し進級や就学に向けて支援体制の充実が図れた。臨床心理士の子育て相談は保護者からの希望も増え、家庭とも連携して子どもの成長を見守れた。
3. 異年齢児との交流など	① 移動動物園や作品展では縦割り保育を意識して取り入れることで、異年齢児との関わり方を知るきっかけとなった。園庭や延長保育での自由あそびでは自然と異年齢児の交流が増えた。 ②延長保育の充実したカリキュラムの為、利用者が多くなり縦割り保育ならではの教え合う姿が多く見られた。満3歳児も含めての異年齢交流も定着しつつ、思いやりを持って関わろうとする姿が増えた。
4. 危機管理、安全管理	新年度を迎えるにあたって「ヒヤリ・ハット」マニュアルを改善。また、バス乗車時の「ヒヤリ・ハット」の見直しを全職員で共通理解し、環境整備が行えた。

	① 不審者対策として、オートロック式の通用門の開閉を徹底して行うよう職員でも共通理解している。また、保護者へも開閉時への危機感を持ってもらえるよう、メール配信や掲示物、課外教室の講師とも共有するなど注意喚起を行った。 ② 突然起こる自然災害に対して、園児が自分で考え行動できるように、また、全職員の危機管理意識を高めるためにも、避難訓練を計画的に実施できた。年3回の避難訓練の中で、活動中に不意打ちでの避難訓練も実施し、とっきの判断への意識も高められた。 ③ スイミング活動の中にも身を守るための動作を組み込み、落ち着いて子どもたちが行動に移せるように今後も引き続き、指導していく。
5. 地域の役割を果たすための環境づくり	① 幼児教育と小学校教育を円滑に接続するため、自分の思いを相手に伝えたり、相手の思いに気付けるように日々の保育に努めている。 ② 運動会予行会に地域の皆さまを招くことで、子どもたちの学びや成長の姿を直接見て頂き、保育活動を地域に理解していただく機会となった。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・危機管理体制についてマニュアルも都度改善し、安全管理を行えた。防犯研修を通して園全体の職員間の共通理解も図れた。地震や防犯など大型絵本を活用し身の安全について学ぶ機会を増やせた。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
1. 保育の質の向上	① 臨床心理士からの園内研修では、引き続きテーマに沿ってデスカッションを行い職員間の共通理解が図れるようにする。また、危機管理体制など、新人や経験年数が少ない職員にも指導方法などについて早期から園内研修を実施し、共通意識を持って取り組めるようにする。 ② 外部講師や臨床心理士ともタッグを組み、保育の質の向上に努めたい。
2. 子育て支援の環境づくり	① 在園児の保育が充実した中で、未就園児保育の充実や子育て相談を行っていくようにする。 ② 未就園児向けの園庭開放、2歳児保育と在園児との交流などでカリキュラムに支障が出ない様に、交流の時期やフリー職員の人数調整に無理のないように開催していく。
3. 異年齢児との交流など	① 自由遊びで異年齢児と関わる機会を増やし、教え合ったり助け合ったりと一緒に過ごす時間を今後も作るようにする。
4. 危機管理 安全管理	① 不審者・防犯研修を通して、園での体制を整えられるように改善していく。職員間だけではなく、職員が常駐していない時間帯の課外講師との協力も不可欠であるため、引き続きオートロックの確実な開閉を周知していきたい。 ② 園内の防犯対策について、園独自の研修を行い、日々の環境設定の見直しを図れた。安心して保育できる環境を今後も続けていきたい。
5. 地域の役割を果たすための環境づくり	① これからも幼児教育と小学校教育を円滑に接続するため、自分の思いを相手に伝えたり、また、互いの思いを伝え合えるように日々の保育に努めていく。 ② 今後も、地域の皆さまに運動会の予行会をご覧いただくことによって、幼稚園と地域が一体となって子どもたちの成長を支える雰囲気づくりを続けていきたい。

6. 学校関係者の評価

- ・園内研修や安全対策、子育て支援、異年齢交流に積極的に取り組まれており、就学や進級もスムーズで安心して預けられます。
- ・地域との連携も大切にされています。
- ・暑さ対策や災害対策は、今後も迅速かつ適切に進めていただけることを期待しています。
- ・通用門のオートロックに対する注意喚起が度々あって、安心感がある。
- ・避難訓練を通して子どもたちの防災意識が高まったように思えた。